

# ソノひびヨリ

自らを由とする  
ひとたちへ贈る  
極私的な旅の記

ソノひびヨリ  
2026年 第二〇号 <新春>

発行元  
たびたびまたたびプロジェクト  
〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目18-27  
Tel.06-6351-3474 Fax.06-6351-9364  
発行日 2021年1月5日(季刊)

企画 たびたびまたたびプロジェクト編集委員会  
制作 株式会社アートグローブハルファン

WEB <https://sonohibiyori.net/>  
<https://www.instagram.com/sonohibiyori>  
<https://twitter.com/sonohibiyori>



目次

ソノひびヨリ 大阪府堺市「古代、中世、幕末、近代のメルティングポイント堺へ」後編

「写して眺め、寄つて候」天皇御陵巡視の旅 外伝編

昭和ガラクタノスタルジー「家の「やまげモノ」

「合」肴「い」ま「ひ」ま「な」 一五六献目から「五一」献目まで

ソノひびヨリ 沖縄県竹富町・西表島

Vol.20 記念企画 ソノひびヨリ×やいま道行

「リベンジ」冬の西表島



のです。なんだか凄く逸話です。

店内は四〇席弱ぐらいの広さで、お茶は自分で汲みに行くセルフサービスです。あったかいお茶をいただきたいと、念願の「くるみ餅」がこちらへやってきました。見た目はウグイス色の餡しか見えませんが、ほじくり返すと白玉のようなお餅が現れました。これが「くるみ餅」という名の由来なんです。餅を包んでいる！ その餡の味は、東北地方のずんだ餅にも似ているけれど、もっと滑らかで上品な感じ（ずんだ餅、ごめん）です。お餅も柔らかな五個ほど入っていて、食後のデザートには程よい分量で「正直、めっちゃ美味しいです！」この「くるみ餅」ができた頃は、塩を使いしよっぱい茶菓子だったみたいで、中世の南蛮貿易で「ルソン（現在・フィリピン）」から砂糖が輸入されたことで甘味を加え現在の「くるみ餅」になったそうです。しよっぱい和菓子って想像がつかないですね・・・。



お店に入ると奥のカウンターで注文、会計を先に済ませば番号の入った木札を渡してくれます。「くるみ餅」一人前410円

九州道場からも見えるのですぐ分かる「かん袋」さん。

環濠南側エリアに堺の豪商と戦国武将の墓がある古刹へ



なんだか地味な総門の南宗寺。



国の重要文化財の1647年建立の「甘露門」、印象はただ地味だな。

店を出て南に進めば児童公園があり、そこを東に左折して約一五〇m進むと謎多き古刹の総門に到着。ここは環濠の南端にある「臨濟宗大徳寺派」のお寺「龍興山 南宗寺」です。このお寺の開山は

一五五七年（弘治三年）、戦国武将「三好長慶」が実父を弔うために建てたお寺で、三好一族の菩提寺だそうです。敷地内には、地味な感じの（笑）国の重要文化財「仏殿、唐門、甘露門」もあります。本当に地味なんですよ。この重文たちは、「甘露門」の欄に手書きの看板があるだけ（重文でことを見落としてしまっています）、「唐門」なんて何も説明板がなく近づけばセコム？のブザーが鳴るだけなのです・・・。



「甘露門」近くにある「三好長慶」像

拝観料（大人四〇〇円）を払えば境内を見学できます、そこには「千利休」の師匠にあたる「武野紹圃」のお墓、弟子の「千利休」のお墓があります。でも、確か千利休のお墓は京都にある「大徳寺・聚光院」じゃなかったかな・・・。そして一番の謎が「徳川家康」のお墓がある！？ そんなわけない「家康」のお墓は「日光東照宮」だよ。気になり調べると伝承として「大阪夏の陣」で豊臣方の「後藤又兵衛」に討ち取られ、ここ「南宗寺」に祀られたと書かれています。なんだか都市伝説のような話だと思いました。ただ、そのお墓は立派で、国の重要文化財「唐門」の奥にあることを考えれば意外と本物だったりして（笑）、そんな訳ないか。このお墓は拝観料を払わなくても「唐門」の間隙から拝むことができます。警告音のブザーに驚かないよう注意です。



国の重要文化財「唐門」



ブザーを気にせず、唐門の間隙から撮影した「徳川家康」の墓

都市伝説系の「南宗寺」を出て、東隣の区画にある「大安寺」の山門前にて撮影。ここには基本、非公認となっていて、前は春と秋に特別公開されていたと思います。来られる方は事前に調べてから

堺の歴史をより知りたいならオススメですが、しばらくの辛抱です。ね、来られる方は注意してくださいね。



拝所前のボランティアガイド



「仁徳天皇陵（大仙古墳）」の拝所。

「仁徳天皇陵」の全貌が見たい！ そんな願いを叶える新アクティビティ！？

ビジターセンターの近くに立つ「仁徳天皇」像

この秋より運行を開始した、世界遺産観光の目玉！ 天皇陵の向かいに広がる緑地「大仙公園」に見に行くことにしました。この「大仙公園」は、図書館や博物館、茶室、日本庭園を併せ持つ総合公園になっていて堺市のシンボルパークだそう。その中心部に「どら池」（なんでこんな名前なんだろうか・笑）があり、その直ぐそばに新たな世界遺産観光の目玉！「おおさか堺パルーン」の発着場があります。光の楽しみ一つかもしれません！

この「おおさか堺パルーン」は、上空一〇〇mから世界遺産の古墳群を眺望できる新アクティビティ！ 今までは、「せつかく観光」にきたけど「仁徳天皇陵」の全貌が分からず「がっかり」したとよく聞きましたが（笑）、パルーンに乗れば「仁徳天皇陵」の全貌はもちろん、大小様々な古墳を肉眼で楽しむことができます。搭乗時間は約一〇分から一三分と少し短い気がするけど、定員が一五名ほどなので意外とゆったり堪能できるかもしれません。料金は大人・四二〇〇円（WEB割引・四〇〇〇円）で堺市民だとお得に三二〇〇円で乗れちゃうんです（いいなあ・・・）。

この日は時間がないので搭乗できない・・・みだれ髪じゃなくうしろ髪引かれる思いで先を急ぎます。

駐輪場に戻る途中、どら池のそばに「只今、長期休館中」の「堺市博物館」があります。来年二〇二六年四月一日より開館予定です。



休館中の「堺市博物館」



堺市茶室「仲庵、黄梅庵」

博物館の手前には、お抹茶を一眼（二服・干菓子付 五〇〇円）を有料でいただいた

ける国の有形文化財「堺市茶室（仲庵、黄梅庵）」があります。この二つの日本茶室は、東京芝浦から奈良県橿原市から移築したものです。ようす、堺にあったものじゃないんだ・・・。茶室の門扉には、わび茶を説き指導者としても活躍した堺の豪商「武野紹圃」像が座り、その向かいには弟子にあたる「千利休」がいた。

ここ「大仙公園」は、意外に堺観光がぎゅっしり詰まっています。観光をきつちり楽しんで半日かけてまわるのがいいかも。但し、博物館が再開してからがいいですね。また、古墳群をもっと周りたい人には「仁徳天皇陵」より



茶室の門扉横の武野紹圃像



武野紹圃像の向かいには千利休像

南に約一キロで行けば「履中天皇陵（上石津ミサンザイ古墳）拝所」、北に約一・五キロで「反正天皇陵（田出井山古墳）拝所」。親子二代、三代の天皇陵を参拝することもできます。

来た方が良いでしょうね。

何が公開されていたかといえば、ここにも国の重要文化財があった。一七世紀前半の狩野派の作といわれる「障壁画」と総檜造の「本堂」が指定を受けています。その「本堂」は、ドラマ「黄金の日」（松本幸四郎主演）の主人公だった堺の豪商「納屋助左衛門（ルソン助左衛門）」の居宅を一六八三年（天和三年）移設したものと伝えられています。外から、どれが「本堂」が良く分かりません、残念です。

ドラマ「黄金の日」の最終回は確か、秀吉に罪を問われた助左衛門が堺港から南蛮船に乗りルソンへ旅立つシーンだった。では、私も環濠エリアから飛び出し世界遺産へ向かうことにします！あの世界遺産の巨大古墳に向かう。

環濠の南側から飛び出し、ここから二・八キロほど東にある「あの」世界遺産を目指し自転車走らせませす。いつなら、基本、徒歩のだけれど、快適な自転車時短！「御陵通り」を約一〇分走りきると、目的地の日本最大の古墳にして世界最大級の墳墓「世界文化遺産」の一つ「大仙陵古墳・仁徳天皇陵」に到着した。「御陵通り」の道中、環濠エリアを出て、すぐ阪神高速の高架をくぐり府道三〇号（南北に走る）までの間は、開発途中のような殺風景だった・・・。府道三〇号を過ぎれば緩やかな上り坂になり街路樹が立ち並び「御陵通り」らしくなってきましたよ。



北木道の「御陵通り」、国境近くが商業街所

並木道の「御陵通り」を進んでいくと、まず右手に緑地が広がります。これが「大仙公園」で、もう少し進むと左手に堀のある緑の丘のような「仁徳天皇陵（大仙古墳）」が現れます。そこから約四〇〇m先に国旗がたなびく拝所入口を確認できました。思っていたより現実の大きさに圧倒されますね。とにかく大きいのです。さすがに世界一の墳墓です！古墳本体の大きさが前方部幅約三〇七m（高さ約三三・九m）、後部幅約二四九m（高さ約三五・八m）、全長が約四八六m、その周りに三重の濠がめぐっているため、前方部側の濠を踏めば約七〇m近くあると思います！（詳しく天皇陵を知りたい方は、本誌、赤木翁の「遺暦画 写真家の「写して候・寄って候」天皇御陵踏破の旅」をご覧ください。）





百舌鳥・古市古墳群 勝手に世界遺産登録記念

# 還暦前、写真家の「写して候・寄って候」 天皇御陵踏破の旅

## 外伝編

五十路もなかばの頃、ふと考えた。

日本国とは何なのか、日本人とは何なのか

その答えを探す為に、2600年を遡る時空の旅へ出た

イデオロギーなど関係無い、ただ、

今ここに残る時間の集積を写してみたい

写真取材 赤木賢二



堺一日観光の締めくくり、中世の世界への玄関口だった堺旧港へ

「仁徳天皇陵」と「大仙公園」を後に、環濠エリアに戻ります。帰りは緩やかな下り坂なので「あっと」という間です！さすがは自転車です、約四キロを五分ほどで環濠の西側エリア「童神橋」付近に到着です。

環濠西側エリアは開発が進んでいて、あまり観光要素がありません。来るときに乗ってきた南海本線・堺駅周辺には、ショッピングモールや飲食店、ホテルがありますが、思っていた「古代、中世、幕末、近代」の歴史を感じさせてくれるモノが少ないです。そこで環濠の水を海から引いている水路に添い「堺旧港」に向かうことにします。

童神橋を渡り、環濠の外に出ると堺横の水路を港に向かっていて、橋の上を行む人を発見。とても大きな人だと思いついていくと、中世の南蛮人を模したブロンズ像でした！なんだか堺って像が多いような気がする・・・(笑)。

この南蛮人像には名前がついていて「橋上ポルト之助」というんです。二〇二四年に公募により名付けられたそうです。その佇む橋の名前も「南蛮橋」、堺市は中世の南蛮貿易ポルトガルを推しているようです。身長一九〇センチの「橋上ポルト之助」像にちよっと驚きつつ、南海線の高架をくぐり進めば幕末の史跡跡に出くわしました。午前中に巡った幕末の国際的大事件の「堺事件」の現場。一八六八年(慶応四年)ここで、船から上陸してきたフランス帝国内水兵一名を殺害した場所です。それより三年前の一八六三年(文久三年)には、やはりこの港から大和(奈良)で討幕軍兵に参加した「天誅組」が上陸していました。この中には、土佐藩の尊皇の志士「吉村虎太郎」もいたようで、残念ながら拳銃に失敗し大和の地で討死しました。

ポルトガルもそうだけど土佐(高知県)とも、堺との繋がりがあるのだと知りました。



「天誅組義士上陸遺跡」の碑



南蛮橋に立つ橋上ポルト之助さん

そんなことを考え先へと歩いていく。府道の高架をくぐりゆけ遊歩道のスロープを登ると、目の前に広がる海。ここが中世の南蛮貿易や幕末の動乱などの玄関口になった「堺旧港」。この辺りはアーバンリゾートタウンとして再開発が進み、宿泊施設の「ドーセットバイアゴラ 大阪堺」が開業、それにレストランやイルカと触れ合える「ノアドルフインドーム」もあり新しい堺の「アステイネーション」になる予感がするエリアです。

綺麗に整備されたベイサイドのど真ん中に、またや、ブロンズ像！港の入り口の付近の対岸には巨大なブロンズ像まで立っている！ベイサイドのブロンズ像に近づくと、これも昼食後に山門だけ見た、「大安寺」の本堂の持ち主だった「納屋助左衛門(ルソン助左衛門)」の像だった。貿易を通してルソンから日用品の壺などを輸入し、国内で高く売り豪商となった人です。だけど、それが秀吉にバレ(笑)て、屋敷や資財を投げ捨て命からがら日本人町のあるルソンへ移住したと伝わります。

その後ルソンからカンボジアに移り、そこでカンボジア国王への信頼を得て、再び豪商となったとされる。本当かなこの話(笑)、まあなかなかキモの座った人だったんでしょうね。

そして前方に立つ巨大ブロンズ像といえば、明治三六年「内国勸業博覧会」で「大浜水族館(第一室)台風の影響で廃館」の前に立っていたシンボル、「乙姫さん」の愛称で親しまれた「龍女神」の復元像だそうです。とにかくバカデカく、高さ一六mの台座上に一〇mのブロンズ製の像なので、まさに本場に堺市は像が好きですね。さらに港の先へと進むと、本日、堺観光の最終地点に到着。なんか夕日になる前にここにたどり着けてよかったです。観光の最後に選んだのは、日本最古の木造洋式灯台として国の史跡に指定されている「旧堺燈台」です。本道約一m(基礎部分を含む)の洋式灯台は一八七七年(明治一〇年)に、堺住民の寄付などにより建築されました。そして約一世紀の間、堺港を出入りする船の安全を見守ってきましたが、一九六八年(昭和四三年)に役割を終えたようです。その後は堺のシンボルのひとつとして大切に保存されています。

六角形のボディにハニートンクっぽいホワイトカラーがアンティークでカッコいい、木造の洋式建築物は何やら存在感があつて、



台座を入れると26mの龍女神の像



納屋助左衛門(ルソン助左衛門)の像

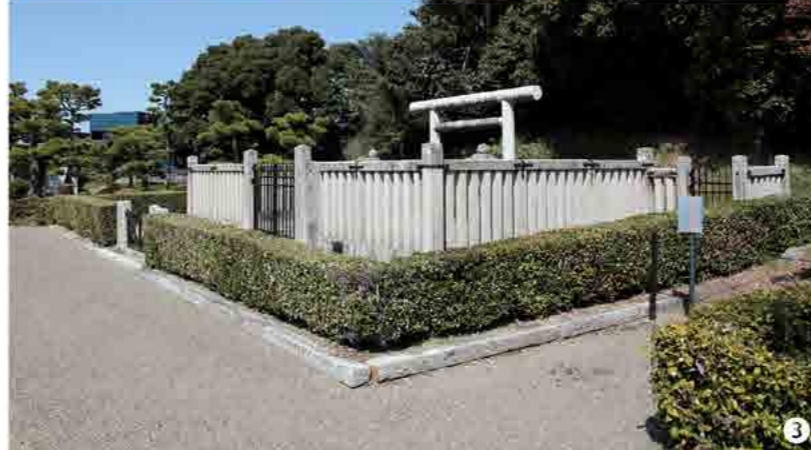


西日に向かい建つ「旧堺燈台」、あと1時間もすれば日も落ちる。

いつも心がときめく(笑)。それに西に広がる大阪湾のロケーションがまた画になります。ここは駅から近く超オースメの場所です。旅の疲れを癒し、日落ちまで「ポツ」とするのにもいいですよ！朝から夕方まで、ほぼ一日で(駆け足で・笑)堺旧市街・環濠エリア・天皇陵を巡ってきました。感じたことは「堺って、時代を超えた史跡が多い！」ことです。今回はあくまでダイジェスト編の旅になりましたが、次はもっと深掘りの旅にしたいです。そうすれば、新しい発見で色々楽しめそうです。では、この港から次の旅に旅立ちます、自転車を返してから。

**飯豊青皇女・飯豊天皇(いとよあおのひめみこ) 陵**  
 御名 飯豊青皇女(いとよあおのひめみこ)  
 生没年 生年不詳、清寧天皇五年 時代 古墳時代  
 続柄 履中天皇(祖父) または 市辺押磐皇子(父) 陵形 前方後円墳

所在地 埴口丘陵 奈良県葛城市北花内  
 最寄駅 近鉄御所線「近鉄新庄」下車、約六〇〇m、徒歩八分。  
 飯豊青皇女・飯豊天皇は、記紀によると五世紀末の皇族で「履中天皇」の皇女、孫とも、また「市辺押磐皇子」の王女とも言われている。  
 四八四年(清寧五年)、「二代・清寧天皇」の崩御を受け一時政務を執ったとされている。記紀では天皇として認めていないが、後の史書『扶桑略記』や『本朝皇胤紹運録』では「飯豊天皇」と記されている。また明治から昭和二〇年(終戦)まで「歴代天皇の代数には含まれないが、天皇の尊号を贈り奉る」とされてきて、現在でも「履中天皇々孫女 飯豊天皇」と宮内庁により称している。即ち即位天皇として扱われている。  
 その御陵は奈良県葛城市北花内の「北花内大塚古墳(きたはなうちおおかふん)」が「飯豊天皇陵」とされている。全長約九〇m、後円部径約五〇m、前方部幅約七〇mの前方後円墳。



2 参道を約50mほど歩けば拜所に到着。この大きさは間違いなく天皇の墓だ。



1 田畠から引絵で一枚。少し歪に見える前方部分

宮跡 角刺神社・忍海角刺宮跡  
 所在地 奈良県葛城市忍海  
 最寄駅 近鉄御所線「忍海」下車、約三〇〇m、徒歩四分

「角刺(つのさし)神社」は、「飯豊青皇女」が在位しない天皇の代わりに政を司った「忍海角刺宮跡」と伝わっている。その跡地に「角刺神社」が鎮座しており、祭神は「飯豊青命(いとよあおのみこと)」である。鎮座する場所は、東に「三輪山」「山の辺の道」、西に「二上山」「金剛山」「葛城古道」があり古代の交通の要所だったことがうかがえる。また『日本書紀』には、「日本邊也(やまとへに) 見ま欲しものは 忍海(おしぬみ)の この高城(たかき) 名は 角刺の宮」と歌われており、そのことから大規模な建造物があった宮と推測されている。  
 境内の東側に小さな池がある、「飯豊青皇女」が宮で朝政を執った時、池に自分の姿を映し、顔を洗ったという「鏡池」がある。日本の歴史において最初の女帝とも考えられる天皇の足跡が残る神社。



4 葛城市歴史博物館を過ぎ、杜が見えたと「角刺神社」到着。



6 これが「鏡池」、今は残念なことに水が濁り何も映らない。



5 拜殿はこじんまりとした、町中によくある神社の拜殿という感じ。

神社名 青海神社 祭神 飯豊青皇女  
 所在地 福井県大飯郡高浜町青  
 最寄駅 JR西日本小浜線「三松」下車、約一〇〇〇m、徒歩一五分

JR西日本小浜線「三松」駅より約二キロに「飯豊青皇女(飯豊天皇)」を祭神と伝わる「青海神社」が鎮座する。もうひとつ、「椎根津彦命」も祀られている。「椎根津彦命」は「神武天皇」東征の際に仕え、海運・漁業、陶業、殖産などを司る神であり「青海神社」の祖神である。江戸時代の国学者「本居宣長」の「古事記伝」に「履中天皇の皇女または孫と言われる「飯豊青海皇女」を祀る」と記されたことにより、祭神として加わった。高浜町史にも「青」の地名はこの「飯豊青海皇女」の名に由来すると書かれている。  
 毎年二月に行われる「柴の実入れ」は、氏子達が「柴」で神主役を叩き、一年の豊漁豊作・商売繁盛を祈願する神事が古くから行われている。また、若狭富士と呼ばれる「青葉山」を通拝する場所があり山岳信仰とも強い繋がりがあがる神社。



7 国道二七号沿いに参道入口がある。駅より15分ほど歩いた。



10 若狭富士と呼ばれる「青葉山」。御神体か？



9 「飯豊青皇女」の禊をした泉と伝えられている



8 森の中に続く参道、国道の喧騒を忘れさせる



① バス停からすぐ「叡福寺」が見える。南大門をくぐり境内に入る。真正面にもう一つ門があった、きっと太子の墓があると思い進んでいく。



④ 「聖徳太子の母・間人皇后と幼少期の聖徳太子の母子像が立つ。



⑤ 母子像が眺める「立岩」、この辺りはユネスコ認定の「山陰海岸ジオパーク」



⑥ 奇岩「立岩」にも伝説が残っている、聖徳太子の異母弟・麻呂親王が、三匹の鬼を退治し、この岩に閉じ込めたという言い伝えがある。

所在地 間人皇后・聖徳太子母子像  
京都府京丹後市丹後町間人  
最寄駅 京都丹後鉄道宮豊線「峠山」から  
丹後海陸交通バス（間人行き）で三〇分  
「丹後庁舎前」下車すぐ

飛鳥時代に起きた内乱「丁未の乱（ていびのらん）」は、仏教の仏性を巡り「大臣・蘇我馬子」と「大連・物部守屋」対立し大和（飛鳥）で起こった争乱。その争乱を避けるため、穴穂部間人皇后・聖徳太子母子は大和を離れ、当時の丹後国「天浜の里」（現在の京丹後市）と呼ばれていた地に身を寄せた。

争乱が治まり大和の国へ帰るとき、皇后は「この地を間人（はしひと）村と名付けよ」とお言葉を言い残した。民たちは畏れ多いと思ひ、「皇后が退座された」また「滞座されていた」ことで「間人」を「たいざ」と読むようになったと伝わる。ただし、『日本書紀』『古事記』などの文献には穴穂部間人皇后・聖徳太子母子が丹後国に在住した記述はない。

### 厩戸皇子（うまやとおうじ）磯長墓

御名 厩戸皇子（うまやとおうじ） 諡号 聖徳太子  
生没年 敏達天皇三年（推古天皇三〇年） 時代 古墳時代後期～飛鳥時代  
続柄 用明天皇（父） 推古天皇（叔母） 陵形 円墳

所在地 磯長墓 大阪府南河内郡太子町大字太子（叡福寺境内）  
最寄駅 近鉄長野線「喜志」下車、四市町村コミバス（近鉄バス）にて「聖徳太子御廟前」バス停下車、徒歩約三分

「聖徳太子」は「三代・用明天皇」の第二皇子であり、「三代・推古天皇」を叔母に持つ、後に「推古天皇」の皇太子となる。その実態は謎に秘められていて、本名は「厩戸王子」「厩戸皇子」「豊聡耳皇子」など多くの御名があり明らかでない。叔母の「推古天皇」、摂政「蘇我馬子」と共に政を司り、「冠位十二階」や「十七条憲法」を定め天皇を中心とした国家体制の骨子を作り上げた。また、国内に仏教を進んで取り入れ信仰したこと、現在の仏教尊崇の対象「太子信仰」ともなっている。

その太子の「磯長墓」は、大阪府南河内郡太子町太子の太子宗の本山「叡福寺」境内「叡福寺北古墳」とされている（考古学的にも厩戸皇子の墓の可能性が高い古墳）宮内庁治定の皇族墓として管理下にある。



② 墓の前には賽銭箱と線香を立てる香炉があった。



③ 「御霊屋」の唐破風屋根には「釈迦如来」が飾られている

## プラモデル編

帰ってきたウルトラマン マット秘密C基地



パーツは意外とシンプルでちゃちいですが、中にはゼンマイが付属であり、基地の中央が回転するのです！



マット秘密基地のパッケージイラストがカッコいい！昭和時代の男の子の心を鷲掴みしたウルトラシリーズ。

間違いなく、叱られて、取り上げられた「プラモデル」・・・。

大物の「じゃまけモノ」登場！！令和の時代でも人気のあるウルトラシリーズ、昭和二期目のウルトラシリーズ「帰ってきたウルトラマン」のプラモデル。これには思い入れがある、小学校時代（昭和40年代後半）に「マントルピース」なんてものがあつた友達の家にお呼ばれで行った時のことを。友達の部屋に入れば、そこは光の国どころか夢の国だった。ウルトラマンや怪獣、仮面ライダー、バロム1のソフトビニール人形やボードゲームに野球盤！そしてこのプラモデル「マット秘密基地」全四種類があつた～。見た瞬間に、欲しくて欲しくてたまらなくなったことを今でも覚えている（笑）。

その後、お駄賃（当時の子供達には月極のお小遣いなどほほほほ存在していません）や少額のお年玉を貯め、やっとの思いで手にした「マット秘密C基地」なのです。それが・・・、ある事で叱られプラモデルを取り上げられた。この「ある事」はここでは書けません（苦笑）、変な事じゃないですけどね。

取り上げて天袋に隠した母も、いつやら忘れてしまったのでしょうか・・・、普通なら反省して謝ったら、許して出してくれても良さそうなのに。許してもらえず、月日は流れ流れて50年・・・。それが令和の時代に出てくるんだよ～！今じゃれっきとした「家のじゃまけモノ」じゃないか～、ねえ母さん！！

## 昭和マンガ ソノシート編

ケケケの鬼太郎・妖怪大戦争

昭和、平成、令和まで続く妖怪アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」のソノシート

まだまだあつた漫画の「ソノシート」！昭和から平成、令和まで受け継がれている妖怪アニメのパイオニア的作品、水木しげる先生の「ゲゲゲの鬼太郎」。この「ゲゲゲの鬼太郎」の前身「墓場の鬼太郎」が週刊少年マガジンに連載され出したのが1965年（昭和四〇年）。その後、タイトルを「ゲゲゲの鬼太郎」に変更して1969年（昭和四四年）まで連載され、1971年（昭和四六年）から雑誌媒体を変え「少年サンデー」にも連載されているロングランな漫画（1987年・昭和四二年より月刊少年マガジンでも連載）。

このソノシートの発売が1968年（昭和四三年）、テレビアニメ（モノクロ放送）の放映開始と同一年、相乗効果を狙っての発売なのかよく分からない。本来の漫画ソノシートの売りは「音声付き漫画」なのに、テレビで動く鬼太郎を観たら買わないんじゃないだろうか・・・。でも、買っている（笑）。



## 電気文具編



恐る恐る電源を入れれば、8桁の数字が打てた！もちろん計算もできる。昭和の機器は丈夫に作られていますね、現代のメーカーも見習ってください（苦言）！！

## カシオ製 CASIO personal-8（電子式卓上計算機）

消費税の計算機能がない電卓が令和の時代に現れた！

また、現代には必要ない「家のじゃまけモノ」が見つかった・・・、それも後生大事にパッケージに入って。それは「家電」じゃないし、「文具」？でもなく「事務機器」でもない「電子式卓上計算機」略して「電卓」と呼ばれていたモノだ。当時、電卓マーケットのど真ん中にいた「カシオ」の「CASIO personal-8」。この「CASIO personal-8」のスペックを調べると、昭和50年（前後）の販売で本体価格は7500円（消費税はありませんよ・笑）、別売りのACアダプターが1200円！！昭和50年の大卒の初任給が約9万円、とするととんでもない定価です！こんな高級なモノを買っていたなんて知らなかった・・・。

そう言えばあの頃、月末になると母がため息をつきながら何やら計算していた後ろ姿を思い出す（きっと家計が苦しく、ため息をついていたんだろうなあ）。それなら、こんな高級品をなぜ買ったの？買わなければ良かったのと思ってしまう（苦笑）。消費税の計算機能がない電卓、これは完全に時代の「じゃまけモノ」決定！でも、母の形見として置いておく事にしますね（笑）。

## 昭和ガラクタノスタルジー

# 家のじゃまけモノ

天袋、家の掃除をしてみれば 出るは出るは、あの日のお宝？  
誰が行ったか知らないが 旅の土産のキーホルダー  
叱られて、取り上げられたプラモデル  
勉強用、買って使わずヒーローノート  
誰が聴いたかビックスター昭和歌謡のSP盤  
娯楽といえばプロ野球 知らぬ球団、バッヂをつけて草野球

あの頃、捨てずに残したお宝も 今じゃ「家のじゃまけモノ」



大切にパッケージに保存されていた昭和の電子ソロバン！？

酒 / 寒北斗 純米吟醸 (福岡県)  
肴 / もずく酢 (細もずく新芽)

### 一四六 献日

東北銘醸  
寒北斗 純米吟醸  
原料米 国産米  
精米歩合 五〇%  
日本酒度 +四 酸度 一・八  
アルコール分 一五%  
産地 福岡県嘉麻市大隈町



今宵の「献」は、福岡県嘉麻市の「寒北斗酒造」の看板銘柄を「酒のムラタ屋」さんでいただきます。この嘉麻市は江戸時代、秋月藩の城下町として栄えた「七・九年(享保二四年)」に「寒北斗酒造」さんは誕生しました。約三〇〇年受け継ぐ技法と現代に合ったエッセンスを取り入れ醸造されています。その、飲み飽きない究極の食中酒、また「世界に誇れる福岡の酒を」を合言葉の「寒北斗 純米吟醸」！その味わいは、少し熟成した果物のような吟醸香、これは低温長期の込みで生まれた香りですね。好きなタイプのお酒です。味のイメー

酒は日本酒、四季など関係なく爛酒一筋。  
真夏に汗かき呑むゆる爛、真冬に心を解かす熱爛を。  
一献一合、酒場の隅で旅路を思う、一合一肴の旅に出る。  
暖簾をくぐり席に着く、今日の品書き何だろう、  
それが本日の目的地。

# 一 肴



FINIGOU HITONA

日本酒・肴 紀行

あわす肴 もずく酢 五〇〇円  
伝統と革新のバランスが良い「寒北斗 純米吟醸」、少し胃腸のバランスを崩し気味の(呑み過ぎとも言われますが・苦笑)身体に合やす肴は、食物繊維「フコイダン」が豊富な「もずく酢(細もずく新芽)」です。  
この「細もずく新芽」て言うのが良いですね！「細もずく」は名の如く、細くて喉越し良しでぬめりも強く、「新芽」はシャキシャキとした食感が酒の肴として最適です。血中の悪玉コレステロールを吸着して、血液をサラサラにして動脈硬化を防ぐといわれる「もずくちゃん」。キレイになった体内に、旨酒を二献、また肴を一口、続けて二献、延々と続けられる旨旨ルーブで、「大将、もう一合！」と今夜も酒が進む。

## キーホルダー 生物編

昭和がラクタノスタビジー

### 家のじゃまけモノ



なんで？ 生物のキーホルダーなの？ それも昭和にしてはリアルな造形。  
本日の「家のじゃまけモノ」、キーホルダーはキーホルダーなんだけど「いやげモノ」じゃなく、なぜか生物のキーホルダーです。これを見つけた時「あっ、これ駄菓子屋のくじ引きだ」と思い出した。なぜ、「生物キーホルダー」のくじ引きをしたのか？ 大当たりは、どの生物だったか？ 全然、覚えていない。ただ、駄菓子屋さんの壁に吊られていたキーホルダー(紙ボードにひっかかれていた)の束が記憶の底から蘇った(苦笑)。  
記憶を遊べば、当時、昭和40年後半のテレビ番組では「野生の王国」や「すばらしき世界旅行」「知られざる世界」など動物を扱うドキュメンターが人気だった。そこに目を付けたのか分からないけど、「今」ここにあるって事は・・・、子供たちの間で人気があったって事ですね(ハア～・・・)。よりによって「カメ」と「ザリガニ」なんてね、百歩譲って縁起物の「カメ」は由としても、なんで「ザリガニ」なのか絶対にハズレだったんです！ だって田んぼの溝などに腐るほどいましたよ、「ザリガニ」は！！ あの頃の自分に「無駄遣いしちゃダメだ！」と言ってやりたいです。

名所、旧跡も分からない、生物の「いやげ物」キーホルダー。  
本日の「家のじゃまけモノ」、キーホルダーはお土産だと思のですが・・・。「思う」と言うのは、このキーホルダー、どこを見ても名所、旧跡の地名が記されていないのです(苦笑)。  
ひとつはお腹の部分に鈴が入っている「金色のセミ」？ このキーホルダーの雰囲気を見ていると、セミに由来がある神社仏閣のお土産だと推測。ネットで調べてみたけど分からない・・・。セミ関係では唯一「セミの幼虫ヌケガラ」が、受験に落ちない験担ぎらしい。もちろん、このキーホルダーは成虫なので関係ない、せめて「ミ～ンミ～ン」とでも鳴れば良いんだけど。  
そして、もうひとつ、樹脂に固められたカニのキーホルダーだ。これも、どこのお土産か？分からない。水族館または海辺の観光地だろうと思うけど・・・。キーホルダーにされているカニは、なんの変哲もない海辺のカニ。子供だったら、こんなカニ、磯遊びでいくらでも扱っている！ そんな物をお土産にくれた、昭和の大人たちのドタマの中を覗いてみたい。せめて、地名は入れといてよ。

酒/熟成 蔵守 2016年醸造(東京都)  
肴/蟹缶とクリームチーズのカナッペ風

### 一四七 献目

小澤酒造  
熟成 蔵守 二〇一六年醸造  
原料米 国産米  
精米歩合 六五%  
日本酒度 十一  
酸度 一・六  
アルコール分 一七%  
産地 東京都青梅市沢井

本日の一献は、「まちの酒屋」で購入した販売店限定の「熟成蔵守二〇一六年醸造」を頂きます。このお酒を醸造する「小澤酒造」さんは、東京都の奥座敷「奥多摩」に蔵を構え自然豊かな環境で約三〇〇年間、お酒を醸造している老舗の酒蔵です。

そんな環境で約一〇年間熟成させた「熟成蔵守」のお味は、一言で行けばとにかく「濃醇」です！コクがあり酸味も感じられしつかりとした風味、だけど後口がまろやか(喜)。見た目がかなり濃い琥珀色なので、もっとビター感があるのかと思いましたが、意外や意外、熟成酒にすれば上品さも感じる(日頃、飲んでいる熟成酒がかなりキツめだから)。濃厚だけど、決してしつこく、まろやか。な熟成酒は、奥多摩の自然が造り出していると感じてしまう。さすがは、都内の秘境「奥多摩」ですね(笑)。これは、熟成酒好きにはたまらない逸品です！！このお酒との出会いに感謝です、旨い！



### あわす肴 蟹缶とクリームチーズのカナッペ風

そんな上品な熟成酒「蔵守」に合わせ肴は、お正月に残った蟹缶とクリームチーズのカナッペ風。なんて、気取ってみましたけど、ただ単に缶を開け、カニ身とクリームチーズをクラッカーに乗せた即席の肴です。

お酒だけで充分楽しめる「熟成蔵守」だけど、それでは表題の「一合一肴」に偽りがある(笑)。そこで苦肉の策として、濃厚な熟成酒には濃厚なクリームチーズと考えたのです。そこに残り物のカニ身をアクセントにした本日の肴なのでした。

意外にクリームチーズが良く合った。寝かせることでソルトロ成分(ウイスキー、白ワインにある成分です)が多くなり、チーズなどの発酵食品と熟成酒の相性がいいと気づいた本日の一献でした。



### あわす肴 はまぐり酒蒸し 九五〇円

華やかでめでたいイメージの「鷹勇純米吟醸なかだれ」に合わせた肴は、大粒の「はまぐり」の酒蒸し。ひな祭りや結婚式などのお祝いの席で食べられる縁起物の「はまぐり」。その目録のサイズがなんと約七センチ(さすがはこだわり屋の大將です)！大粒の「はまぐり」が、昆布出しの効いたツユにドボーンと浸かり、アクセントに「三つ葉」をバラバラ、なんて美しい今宵の肴！当然「はまぐり」は旨い！残りのツユには「はまぐり」エキスがたっぷりしみ出ているのがまた旨い。なんだか今宵は祝いの酒席のような、華やかで賑やかな一人酒になった(笑)。



酒/鷹勇 純米吟醸 なかだれ (鳥取県)  
肴/はまぐり(大) 酒蒸し

### 一四八 献目

大谷酒造  
鷹勇 純米吟醸 なかだれ  
原料米 国産米 精米歩合 五〇%  
日本酒度 十四・二 酸度 一・七  
アルコール分 一五%  
産地 鳥取県東伯郡琴浦町



### 今宵の一献は、

私のホームでもある「酒のムラタ屋」さんで鳥取県の「大谷酒造」看板銘柄「鷹勇」をいただきます。昨年くらいに「鷹勇」の「純米吟醸・特辛」をここで呑んだことを覚えています、本日は同じ「鷹勇」の「純米吟醸・なかだれ」で一献。まず「なかだれ」てなに？ 思うかもしれないので簡単に説明します。日本酒を酒袋から最初に搾り出すのが「あらばしり」、最後に絞り出すのが「責め(せめ)」。その部分を避け中間部分(中取り・中汲み)だけを使用した日本酒のことを「なかだれ」と言いますね。この中間部分のお酒はバランスが良く安定した味わいと言われ、「なかだれ」は「美味しい」と取り「をした、贅沢なお酒なのです(笑)。その風味は、米の旨味が花咲くように膨らみ、酸も感じ、後口にキレもあるバランスの取れたお酒です。ゆる欄にすれば、華やかさがさらに膨らみ花が咲く！ 祝いの酒のようなめでたいお酒です、正月に呑むべきだったと悔んでしまっ。

酒/カネナカ 生醗純米 超辛口(山梨県)  
肴/ちぢみほうれん草おひたし

### 一四九 献目

中島屋酒造場  
カネナカ 生醗純米 超辛口  
原料米 国産米 精米歩合 六〇% 日本酒度 十一・五  
酸度 二・〇 アルコール分 一六%  
産地 山梨県周南市土井



本日はこの「一合一肴」初期シリーズだった「おれがむらただ」の記念すべき第二献目を飾った「中島屋酒造場」さんの「カネナカ」で一献。いつもは「カネナカ」の熟成酒(古酒)を好んで呑んでいる、本日は若くフレッシュな「カネナカ」の生醗純米「超辛口」を頂きます。若くてフレッシュな「生醗純米 超辛口」その味は、熟成酒と違いスッキリとした口当たりの印象、超辛口と謳われているが濃厚な旨味にコクが際立つ、この辺りはさすがです。熟成酒と比べるとやや角を感じますが、やはり同じお酒なので味の輪郭は似ています(そりゃ、親子みたいなものだからね(笑))。

辛口だけど、やわらかなコクがあり適度な酸味の調和が心地良く仕上がっています。二〇一三年にフランスの権威あるコンクール(日本酒部門)で金賞受賞しただけありますね。よくできたお酒です。(私は熟成酒の方が好みですが(笑))

### あわす肴 ちぢみほうれん草おひたし 六〇〇円

熟成のクセがなく、少し物足りなさを感じたので、せめて肴にクセやアクを持った物にしたい。そこでチヨイスしたのが「ちぢみほうれん草おひたし」。ところが「一口食べてびっくり！

エグ味を求めてほうれん草を選んだのに、茎と根っこ部分が驚くほど甘い！！大將に聞いてみると「通常のほうれん草に比べると倍の甘さ」だと言った。寒い時期の葉野菜なので凍らないために糖分が増えるからだと言われているらしい。なんだかイメージと違っていた今宵の一献だったけど、酒良し肴良しの良い夜だった。



酒 / 朝日山 純米吟醸 (新潟県)  
肴 / 東雲かまぼこの天ぷら

一五献目

朝日酒造  
朝日山 純米吟醸  
原料米 新潟県産米  
精米歩合五五%  
日本酒度十二  
酸度一・一  
アルコール分一五%  
産地 新潟県長岡市朝日



本日は宅呑みで一献！ 本日の酒は、あの「久保田」の朝日酒造さんから「朝日山・純米吟醸」をいただきました。この朝日酒造さんは、一八三〇年（天保元年）に創業、以来、約一九〇年間に渡り新潟県長岡市の農家とともに、良質な酒米と清澄な地下水脈の軟水でお酒を作り続けている酒蔵です。本日も「朝日山・純米吟醸」の味わいは、初めは「甘口？」と感じるくらい柔らかい舌触り。だけど、すぐに「キレの良い」スッキリ爽やかな後口です。香りは穏やかで、冷酒でもぬる燗でも楽しめる純米吟醸酒ですね。なんと言ってもコスバがおいしいお酒です。



あわす肴 東雲かまぼこの天ぷら

今日の肴は露天で買った「東雲かまぼこ」さんの「天ぷら」、練り物のね！ 愛媛県松山の「東雲かまぼこ」さんのメイン商品は「じゃこ天」、「じゃこ天」といえば宇和島のイメトジなのだけど・・・ 試しに買ってみたいところ、びっくりするくらい旨いのです！！ 宇和島のイメトジがぶっ飛びましたよ（笑）。

酒の肴としてもスッキリ爽やかな「朝日山・純米吟醸」の邪魔をしない、上品な味の「天ぷら」なのです。それもそのはず、「東雲かまぼこ」さんのこだわりが凄い！ 宇和海や瀬戸内海など近場でとれた新鮮な魚だけを使用し、防腐剤・化学調味料・合成着色料などは一切使わず、揚げる油は「なたねサラダ油」に天然岩塩。それは旨いはずですよ！！ これ簡単お手軽、究極の酒の肴ですね。



あわす肴

あじフライ(大) 八五〇円

何でも合いそうな無濾過生原酒の肴には、ちまっと冒險の「あじフライ」。肉厚で大きなアジだけど、青魚の旨味がしっかりと味わえるムラタ屋の「あじフライ」。半分は塩で青魚の風味を楽しみ、あと半分はウスターソースで洋風にして味合う！ そして無濾過生原酒の秀鳳を二献、青魚の風味に負けないパンチと米の旨味。最後に口内に残る油分をサラリと流す爽快感、今宵も良い酒に出会えた。



酒 / 秀鳳 特別純米 無濾過生原酒 美山錦 (山形県)  
肴 / あじフライ(大)

一五献目

秀鳳酒造場  
秀鳳 特別純米 無濾過生原酒 美山錦  
原料米 山形県産美山錦 精米歩合五五%  
日本酒度二二 酸度一・五  
アルコール分一七% 産地 山形県山形市山家町



本日は三年ぶり「秀鳳酒造場」さんの看板銘柄を、酒のムラタ屋さんにて一献です。それは「秀鳳・特別純米・無濾過生原酒・美山錦」、それも無濾過生原酒なのです！ 地元で長きに亘り栽培されてきた「美山錦」の味わいを伝えるために、無濾過としているようです。

その味わいといえば、一口含めばパンチ力の凄さ！ さすが無濾過生原酒と思わせて、次には米の旨味がしっかり押し寄せる。よく計算されて醸造されている無濾過生原酒ですね。もちろん、ぬる燗で頂いても酸が立ち旨味も膨らむバランスの良さでした。

# ソノビヨリ

Revenge! Winter on  
Iriomote Island.  
2025  
Dec. 18~21 day

## 第四三話 沖縄県竹富町・西表島 『リベンジ！冬の西表島。』

一二年の歳月を超えて、いざ八重山へ出発！

二〇二五年二月一八日、大阪の気温九・五度、晴れ。少し早いが朝八時前、関西国際空港・石垣行き九時二〇分発ANA一七四七便に搭乗するため電車で向かった。

本日は待ちに待った一年ぶり一回目、八重山諸島・西表島旅の出発の日。なぜ、こんなにも訪問が空いたのかを言えば、二〇二一年に計画していた旅がコロナ禍のため頓挫して、こまですれ込んでしまったのです・・・(苦笑)。いくらでも行く機会があったのでは？ 思う方もいると思いますが、なかなか都合がつかず一年の歳月が流れてしまったのです。そんな歳月の中で色々な出来事があり、その出来事を総括するのが旅の目的になりそうぞうです。

それに、過去三度の「冬の八重山旅行」は、ほぼ全日が曇天か雨だった・・・。今回こそはリベンジを果たし、晴天・快晴の冬の青い空、青い海を体感することも目的の一つです！ そんな希望を胸に機上の人となったが、現地情報は雨模様・・・。

九州までの飛行は順調、だが種子島を越えた辺りから雲がチラホラ、気流のため揺れ出した。やはり天気予報は正しい・・・、南西諸島を含む沖縄地方は今日から前線に覆われるため数日間雨模様のような。やはり天気は悪いのか・・・。天気は自然現象なので仕方ない、ただ延着だけ避けたいのです。

と言うのも、石垣空港到着後の離島桟橋へのバスの時間、そこからの西表島に渡るフェリー出航時間がタイトな行程だから一分の遅れが命取りとなります(オパーに思つかもされないけど、離島ターミナルで二時間待ちは避けたい)。余裕を持って搭乗したのは良いけど、その後がタイト過ぎる移動行程・・・、現地三泊なので一分一秒を惜しむので仕方がない。延着しないことを神に祈るだけです。

空路も海路も定刻発着、そんな軌跡が起こるのか！？

祈りが神さまに通じたのか、予想に反して定刻二時半に到着(昨日は一分の延着だった)。降機案内を聞くと同時にボーディ

西表の思い出が走馬燈の如く、一二年間の月日は遙かなり。定刻に出港した「やえま」は揺れもなく、約六〇分の船旅を終え大原港へ到着。一年ぶりの西表上陸第一歩を感慨に浸るまもなく、桟橋の端から名前を呼ぶ声がする。その声の主は二〇数年前からお世話になっている、西表大原の定宿「民宿・池田屋」さんの「現女将・和子さん」だった。定宿「池田屋」さんは、大原港から歩いて五分と近く、便利な好立地で営んでいる・・・なのに、わざわざ車で迎えにきてくれた(笑)。

サブライズの出迎え、なんだか心がほっこりする心遣いに感謝です！ 約七時間かけ一年ぶりに西表に帰って来たことを実感できる出迎えです！！

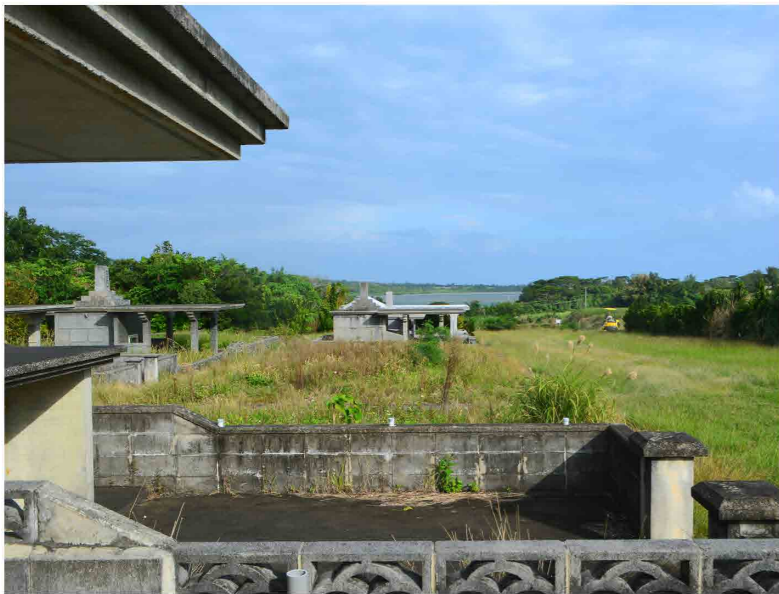
車に荷物を積み込み乗車、二分後には「民宿・池田屋」に到着。宿の前で荷物を下ろしていたら、畑仕事中の「オナー・守さん」が駆けつけてきてくれた。男同士の再会、少し照れくさそうに「後で呑むぞ〜！」と言い残り畑へ戻っていったのです(笑)。

まず部屋に入り荷物を解き終え、食堂で和子さんが出してくれたさんびん茶とサータアンダギーを頂いた。ひとしきり近況を話し終え、この旅の目的地に向かうことにした。

和子さんの運転で集落を抜け農道へ、農地の途中の小高い丘に会いたい人が待っている。その場所には、六年前(二〇一九年)に永眠した池田屋の「前女将・信子オバア」が永遠の眠りにについている。私にとって「信子オバア」は西表のお母さんと言っても過言でなく、生前お世話になった方なのです(きつと、全国には私と同じ思いの方々が大勢いる事でしょうね)。

墓前に立つと走馬燈の如く思い出が溢れてきます、初めてお会いした時のこと、翌年に予約の連絡をした時に覚えていてくれたこと、急に石垣から電話をかけたこと、お昼にオバアが作ってくれたご飯と一緒に食べたこと、二人で玉盛スーパへ買い物に行ったこと、「そんなに西表が良いかい？ お嫁さんを紹介してあげると何度も見合いをさせようとしたこと(笑)、書けばキリがない・・・。ただの旅人なのに家族のように本当に良くしていたんだ、それなのに墓参に六年も経ってしまった・・・。そんな不義理を許してもらうために、もう一度静かに手を合せ心の中で話しかけた「ありがとう、信子オバア。Forever 信子オバア」と。

一〇年ひと昔、島は進化しているー！！  
お墓参りを終え、しみみりとした空気を打ち払うように、和子さんが「来ていない間に西表は変わったよ！ 新しくなった所を見に行きましょう！」と私を誘って車を走らせた。さすがは元幼稚園の先生だけある、空気を一瞬で変えてしまう明るさに感謝！  
まず向かったのが大原中学校前の「大富共同売店」！？ 見た目



海が見える小高い丘に西表の母が眠っている



本日の私の部屋です



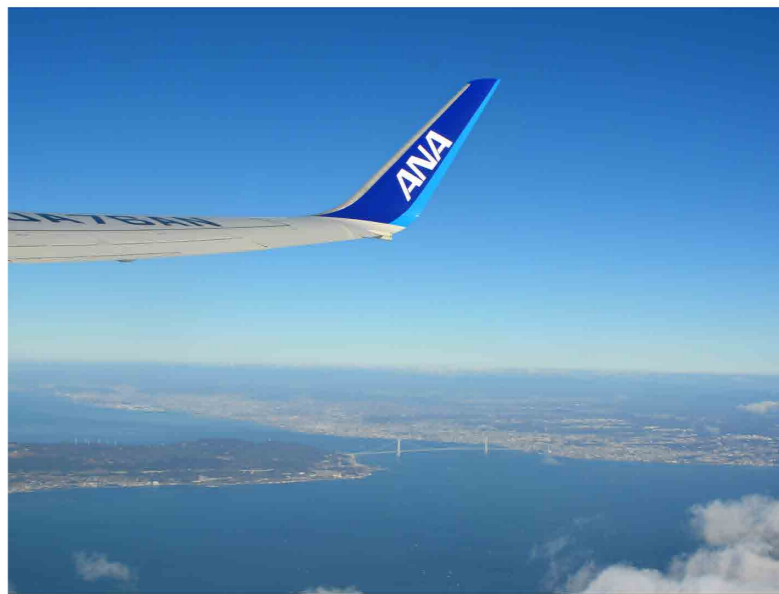
西表島大原港ターミナルに到着



カーリ観光が運営する離島ターミナル直通バス



フライトも順調、1時間強で鹿児島上空



関西上空、良く晴れていて眼下には明石大橋が見えた。



池田家のお墓です。ご無沙汰しております。



乗車、2分後には「民宿・池田屋」に到着



新造船された「八重山観光フェリー・やいま」に乗船



石垣島、白保上空。灰色の雲が覆っている・・・

やはり民宿池田屋のご飯は凄いい！ 西表東部のマイホーム(笑)。「忘勿石の碑」から宿に戻ると、四年前に大阪から西表に戻ってきた池田家・長男「若旦那(笑) 大吾くん」が厨房に立っている。「大吾くん」は着実に次代のオナーシェフとして池田屋を切り盛りしている様子が伺えた。久しぶりの再会なのに挨拶もせず、彼は『先にお客さんの食事を用意するから、もう少し待っていて。焦る時間がない』と慌ただしく仕事に戻った。食堂に居て急かしてしまふのも何かと思ひ、今晚のお酒を「玉盛スーパ」まで買いに行くことにしました。(尚、池田屋さんではドリンク類は持ち込みOKの良心的なお宿ですよ)

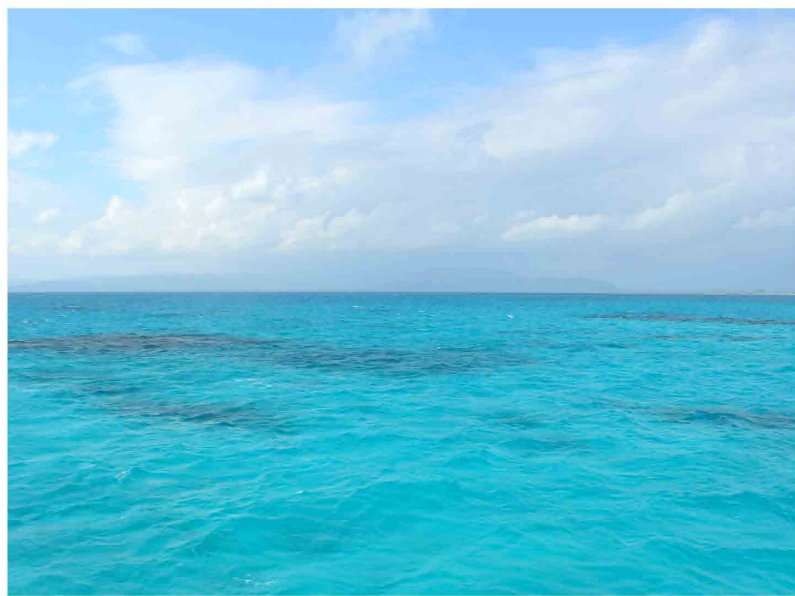
「玉盛スーパ」でゆっくりと島時間感覚で買い物を買って、そろそろ食堂へ直行！ お腹の減りも限界です(笑)。先ほど居たお客さんも食事を終えて部屋に戻っている。オナーの守さんも食卓に付き、早々にオノンビールで乾杯！ そうこうしてる間に、食卓には次々と大吾くんが料理を運んできてくれる。宿泊者の定番メニューから特別に守さんが本日釣ってきてくれた「刺身盛り」、

一八時前夕暮れ時、「そろそろ宿に戻れば御馳走が待っているはずよ。」と和子さんに促されて池田屋への帰路につく。これから長い長い西表の夜が始まるはずだ、嬉しいやら恐ろしいやら・・・。

一は一年前とひとつも変わっていない気がする・・・。疑問に思い聞いてみると「西表初の『道の駅』になったのよ！」と、店内に入れば確かに島の物産コーナーが設置されていた。前までは生活用品や食料品だけだったお店が、お土産を置き出したことで観光客にも好評らしい。

そして仲間川大橋を渡り、大原集落に戻り二〇二二年にオープンした、巨大ヤマネコがいる「ンママキーやまねこパーク(西表東部公園)」。テレビの取材でも取り上げられた「きも可愛いイリオモテヤマネコ」が売りの公園だそうです(笑)。「きも可愛いイリオモテヤマネコ」は滑り台になっていて、なかなかの急勾配です！ 滑る時には注意です、特に大人は(私は着地に失敗して横に転がってしまいました・笑)。

「ンママキーやまねこパーク」から車で約七分、豊原集落の西に「南風見田の浜」がある。そこに向かうのかと思いきや、途中にある大きな駐車場に停車！？ 見たことがない駐車場に車を降りた。そこには遊歩道ができていて、降りていけば浜辺へ続く、なんと「忘勿石の碑」に到着した！ 以前は「南風見田の浜」の入口から海に出て、海岸線沿いに歩いて来なければ辿り着けなかった場所がです！ このショートカット！ これなら観光客も訪れやすいと、さすがは世界遺産になった島だと感心した！ 一〇年ひと昔とは違ったものでは、この様変わりには驚いた(笑)！！



陽の当たる八重山の海は美しい！

直通バスにて離島ターミナルに到着。運行情報の掲示板には何も表示されていない・・・(汗)、急ぎ二時発「西表島・大原行き」を運行している「八重山観光フェリー」窓口で情報収集。運行状況を聞けば『一四時発「西表島・大原行き」は、今のところ運行予定で、上原港行きは全便欠航です。』と。私の乗船する「大原行き」は運行されると聞き胸を撫で下ろした。船賃二六〇円を支払い、やっとここで三分ほどの休憩が取れた。

だが、まだまだ気を許すことはできない！ 昨日まで時化っていた海、いつ状況が変わって欠航になってもおかしくない。皆様も冬の離島へのフェリー移動には細心の注意が必要ですよ(苦笑)。



池田屋で借りた車、1日ここで待っててもらおう。ちゃんと待っててくださいね。



「ういばるデンサ会館」の隣には「御嶽」がある



ターミナル前から見れば新しい建築物を発見!



「御嶽」の前で旧正月(2010年)のお祝い



2015年落成の「ういばるデンサ会館」



西表の山海のうまいものオンパレード~



大好物の「カマイ(リュウキュウイノシシ)の刺身」



民泊池田屋さんのご飯が売りの民泊です!

冬場しか食べられない「カマイ(リュウキュウイノシシ)の刺身」。食べきれないほどのボリュームが食卓を彩る、もちろんお味は最高! さすがは二代揃っての料理人だと感心しました! ワシワシ食べ、ぐびぐび呑み、わちゃわちゃ話し、寝もたけなわすると大吾くんがもう一品を持ってきた! なんと高級食材の「ノコギリガザミ」だった! この一品に時間が掛かったらしい、ガザミの身を外してほぐし、濃厚な蟹味噌と和え、クリームチーズを添えてクラッカーで頂く「ノコギリガザミのカナッペ」なのです!! さすがは大阪の有名店で働いていただけある、こんな垢抜けた料理を西表で食べられるとは思いませんでした。一口食べると濃厚な蟹味噌とクリームチーズがよく合い鳥酒が進む、まだまだ序の口と大吾くんが着席して「乾杯!」とやり直す(笑)。まだまだ続く、西表の長い夜が。



「ノコギリガザミのカナッペ」と採れたて「ちんげん菜」

曇天ドライブは辛い、灰色の西表にギブアップ気味(苦笑)。

昨夜は遅くまで、よく食べよく呑んだのだが、何故だか西表にくと不思議と日の出前にパッチリと目が覚める(体にある野生が目覚めるのか?)。七時三分日の出前の時間に大原港に降りて空を眺める、いつまで経っても明るくならない...。少し明るくなると気がついた、東の空は鉛色の雲に覆われている。この空模様では天気回復の見込めない、昼には雨が降り出しそう。ため息をつき、部屋で移動の為に荷造りをはじめることにした...。

九時三〇分、池田屋さんで借りた車で、まず三キロ先の上原港を目指して行きます。(池田屋さんではレンタカーも借りることが出来ます! 良心的なお値段で。) 西表島の法定速度はだいたい時速三〇〜四〇キロ、三〇キロ先の上原港までの所要時間が約一時間かかります。野生動物、イリオモテヤマネコに注意して走ります。本日の行程は、一時三〇分に旧上原港より「郵便船」で鳩間島に渡り「ペンション・マイトウゼ」泊、何もしないのんびりした一日にする予定(笑)。

ただ、上原で大変お世話になっている方との再会が待っていて、それが本日一番の最大のイベントなのです。はやる心を抑え安全運転で西部・上原を目指した。

上原には思い出が満載、無茶振りの思い出が!

弁当を食べ終わり、ターミナルの外に出て周囲を見渡すと、ひと気は立派で新しい建物が目に入った。待ち合わせ場所の「旧上原港」に立っている様だから、都合も良いので行くことにした。

建物の前に行くとその建物は、二〇一五年に落成した「ういばるデンサ会館(上原公民館)」だった。これは思い出深いところで、一年前の二〇一四年九月に「これから再会する方」から「カメラを持って、上原で大変お世話になっている方との再会が待っていて、それが本日一番の最大のイベントなのです。はやる心を抑え安全運転で西部・上原を目指した。」

悪天候の西表上原から鳩間島間、三〇分の航路はアクティブティ。旧上原港でしばらく待っていると、車が駐車場に入ってきた。降りてきたのが郵便配達員の制服に身を包む、船で鳩間島への郵便集配歴三年の富里保雄さん! そう、この方が無茶振りの人であり、西表での私の保護者でもあり(笑)、兄貴分でもある。まあ、無茶振りの人なのだけれど、三三年間、雨の日も嵐の日にでも、西表上原から約五・四キロ沖に浮かぶ鳩間島に集配している尊敬すべき人。

一年ぶりの再会だけ勤務中なので挨拶も最小限にとどめ(また、あとで・笑)、船に荷を乗せすぐに航路の準備にかかる。港内の波は静かだけれど、外に出れば相当なうねりがあるみたい、濡れないように船の真ん中付近に腰掛け出航。出航して五分ほどで大きなうねりを感じ出した、白波がたち、濡れないようにしようとするのだけダメだ...。こんな時には、濡れる事よりも振り落とされないように何かに捕まる事が賢明です!

沖合に向かうほど三角波がたち上下に揺れます、天候の悪い日の乗船には覚悟を決めてください! まあ、落ちることは無いですけど(笑)。少々荒れ気味の船旅を三〇分楽しめば、鳩間の港が見えてくる。フェリーなら一〇分と呆気なく到着してしまっけど、これも八重山の旅の醍醐味ですね。

懐かしの「ペンション・マイトウゼ」の

パンガローは何も変わっていなかった。三〇分の船旅を楽しむ鳩間島に上陸、すぐさま保雄さんは郵便集配へ、私は本日の宿「ペンション・マイトウゼ」の母家を目指し歩き出す。ここにもお会いしたい人がいる、ペンションのオーナー夫妻の「ケンジさん」と「英子さん」だ。覚えていてくれるか、一抹の不安もあるけど気にせず挨拶に向かうのです(笑)! 母家まで島のメイン通り(笑)を歩くのだけど、建っている家が様変わりしていた、更地になったり、あきらかに人が住んでいない家や、知らない民宿など。ここでも一年の歳月を感じる浦島太郎状態...。

変わったさまに戸惑いながら歩く私を呼ぶ声がした、その方向を見ると畑仕事をしていた英子さんだった。一年ぶりの私に「変わってないね」と笑い、『中にお父さんがいるから。部屋はアーリ(東)の一よ。あとでね!』と畑仕事に戻った。言われた通りケンジさんは母家・食堂で作業をしていた、八重山で知っている方の最年長者(現在は)、丁寧に挨拶をして早めにお暇しパンガローに向かう。なぜ、早めのお暇かといえば、ぐずぐずそこに居れば酒盛りが始まるからです。そう、ここは酒の島なのです(すみません)。



「ペンション・マイトウゼ」のパンガロー



鳩間の港への入り口。鳩間中森ははっきり見えてきた



今夜お世話になる私の部屋、アーリの1



目指すは「ペンション・マイトウゼ」の母家

静かな貸切状態のマイトウゼで、鳩間時間を満喫のはずだった...。シャワーを浴び終え外に出ると、先ほどより天気は悪くなっている。雨が降らなければ良いんだけど、まあ、雨に濡れてもまたシャワーを浴びれば良いかと思っ歩いて歩くことにした。一周約四キロほど一時間強で周れる距離。ルートは島を反時計回りに進み、母家までのメイン通りを抜け浜沿いに鳩間小中学校を左手に見て緑のトンネルの小道に入る。が、曇天で暗く緑のトンネルが今日はお化けのトンネルのよう...。鳩間には名のつく浜が八つほどあるのですが、どの浜もどんよりと暗く撮影する意欲も失くしてしまっ。ただ、ひたすら歩くだけの時間になってしまった。まあ、時間潰しで出かけてきたのでよしとして、夕食までの時間は部屋でのんびりと過ごすことにします。

きた道を戻り中森に続く坂の途中に「ペンション・マイトウゼ」のパンガローが建っています。母家からは徒歩三分の距離。今日の泊まりは私だけらしい、静かなパンガローは昔のままでなぜか安心する。荷を解きベットの転がったが、潮水でベタついた体が気持ち悪い...。誰も居ないからパンイチでシャワー室に向かい、さっぱりとした気持ちで夕食までの時間を島内一周に出かけることにした。ここでは、それくらいしか時間を潰す方法はないのです(笑)。



曇天の海中道路「ピナイサーラの滝」からデンサターミナルへ



思い出の場所を散策している間に約束の時間がきた。郵便船を係留している場所に戻り待つと、旧港の駐車場に一台の車が人ってきた。これから渡る鳩間島まで船で運んでもらう郵便船の船長だ。そう、その人こそが無茶振り連発の方! 本日の最大のイベント、一年ぶりの再会なのです。

「あつ、なるほど」と状況が理解できて一安心も東の間、「はい、挨拶をしない」と、ここでも無茶振り! 何に對しての挨拶かわからず、旧正月のお祝いと聞いたので「あけましておめでとうございます」と言ってしまった。すると集まっている方達がボカんとした顔で私を眺め無言...。「やってしまった」と私が思った瞬間、皆が大爆笑。一瞬で神聖な空気を吹き飛ばしてしまった(苦笑)。それをキッカケに場が和み、お重の料理をつつき鳥酒を呑む、静か

ただ暖かいお祝いに参加させてもらった。思い出の場所を散策している間に約束の時間がきた。郵便船を係留している場所に戻り待つと、旧港の駐車場に一台の車が人ってきた。これから渡る鳩間島まで船で運んでもらう郵便船の船長だ。そう、その人こそが無茶振り連発の方! 本日の最大のイベント、一年ぶりの再会なのです。

「これから再会する方」に呼ばれ「デンサ広場」に向かったのです。すると「デンサ広場」横のこんもりとした森の前にテントを建て、正面真ん中に御神酒を供え? 一門のみなさんが集まっていたのです(ほほ、顔見知りですが)? 何が何かわからず、末席に着座を促されたのだけれど、頭には「?」マークが点滅です。神聖な空気を邪魔しないように、隣に座っていた顔見知りの方に聞けば「旧正月のお祝いよ」と答えが返ってきた。そして正面の森は「御嶽」で、それも非常に珍しい個人所有の「御嶽」だったのです。

少し仮眠をとり気付けば一八時前、一八時には母家の食堂に行くのがマイトウゼのルール。早くても遅くてもダメ、ちゃんと時間を守らなければ英子さんに叱られます(笑)。

昨日は池田屋さんで食べ過ぎて胃が疲れ気味、英子さんのご飯は適量で優しい味が嬉しい。毎回、ここで疲れた胃を休ませる八重山のオアシスのご飯なのです。ただ、ここは先程書いた通り「酒の島」、気を抜けば酒量が増えます(注意)！

晩御飯の献立は地魚の煮付けにお刺身、切り干し大根と昆布の炊き合わせ、お漬物と味噌汁、もちろん「オリ生」も！ 本当に優しく美味しい晩御飯をいただいた。追加の晩酌には「鳩間島音楽祭ラベル」小瓶の島酒を聞きながら静かな時間を過ごした。私が食事をしている向かいには、ケンジさんと島の方が島の行事の打ち合わせをしている。この島ではよくある風景を眺め食事を済ませ、島酒をちびりちびり静かに呑んでいた。そのうち、もう一人ケンジさんを訪ねてきた。私を背にして座ったので顔は見えない。話し声は聞かずとも耳に入ってくる、その声を聞いているうちにどこかで聞いたことのある！？・・・あつ！この人は、酒の島の化身の一人「比嘉盛雄さん」だ！ ますい！ そう思った瞬間に盛雄さんが、こちらを振り返り「賢。ほっとするのも束の間、『あつ！』と呟き、再度、振り向いて『これはこれは失礼しました』と。あつあつ、見つかつてしまった・・・この盛雄さんとは不思議な縁で繋がっていて、仕事は大工さん(棟梁)で石垣在住、なのに私の過去の八重山旅で必ずどこかで遭遇するのです。

盛雄さんは手をヒラヒラ動かし、自分の隣を指差した。ああ、これで今夜は長くなる覚悟を決めて、隣の席に移動した・・・。

「酒の島」鳩間島をまた実感。「ぶかりなおし」の恐ろしさ。

雨音が目覚めた、時間を見れば七時過ぎ、どうやら外は雨模様。朝食八時ルールを守るため、ノロノロと身支度を始めた。眠い・・・というのも昨夜、食事あと盛雄さんに「ある場所」に連行され、深夜二時まで呑んでしまったからなのです・・・。

その「ある場所」とは、母家まで行くメイン通りの手前の青い家「あざて屋」さん。朝食のため母屋に行くには、その前を通らなければならぬ。とにかく注意深く、恐る恐る、家屋前のテラス席に人が居ないか確認して慎重に通過する。(なぜ、恐る恐るなのか、それはこの島では早朝から普通に呑んでいるからなのです。朝から捕まれば大変なことになる・苦笑)

とりあえず誰にも見つからなく、母屋に到着でき今日も美味しく朝ごはんをいただくことができた。

食事後、宿代のお支払いを済まし、英子さんと少し話して母家を後にした。バンガローに戻り、シャワーを浴びて帰る支度をと、こ

八重山そばを食べ終え、他のお客さんが帰ったタイミングで三代目店主に事情を話した。急な訪問なのに快く仏間へと案内してくださり、出会いからの思いを込め、仏前に思い出の詰まった写真を備え、手を合わせる事ができた。



雨模様で西表上原、デンサー食堂の前



坂の途中に数棟が並び立つ「リゾートイン西表島」



デンサー食堂の名物「八重山そば」



天井が高く居心地がいい本日の部屋

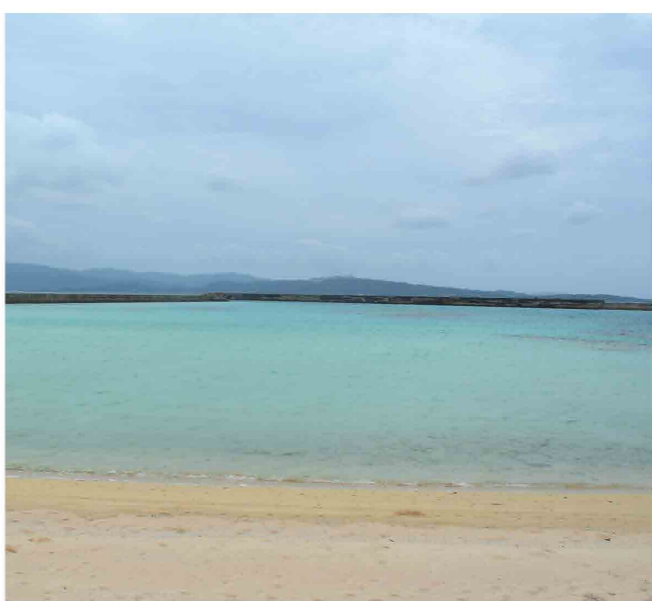
西表島の上原で、

一番上原らしい時間を過ごさせてもらう、旅の覚悟。四時半、『早めの夕方に来い』と言っていたので呑み会の場所へ移動する。呑み会場所はレストランや居酒屋でもなく、言わば「大人の秘密基地」囁み碎けば私的な呑み部屋とも呼べばいいのかな(笑)。外はまだ雨が降っているけど、宿から秘密基地には数分で

の後の段取りを考え歩いていたのが悪かった。うっかり「あざて屋」さんの前を確認もせず通過しようとした。その時、名前を呼ぶ声があった。先ほど誰もいなかったテラス席に、マイトウゼオーナーのケンジさんが座って呑んでいた・・・ケンジさんが私に手のひらをヒラヒラとする・・・。

当然、年長者に朝のご挨拶は常識、テラス席に近づきケンジさんに朝の挨拶、あざて屋オーナーの東里さんに昨晚のお礼を丁寧に伝える・・・「ギョッ」。不覚にもテラス席の死角に盛雄さんが居たのです！ その手には、島の水割りグラスを握りしめ笑顔で一言「さあ、カンパイ」。

やはりこの島は「酒の島」だつ！ いや違う「狂った島」だつ！ 郵便船の到着時間まで付き合わされる、保雄さん早く来て！



ペンション・マイトウゼ母家・食堂の前に広がる「前の浜」



本日の晩御飯。お刺身にはギーラ(ジャコ貝)入り！



翌朝の朝ご飯、この感じがいい

行ける！ その為この宿を選んだようなもの(笑)。

基地内に入ると、普段着に着替えた保雄さんが『よく来た！よく来た！』と、仕事中とは打って変わって歓迎して迎え入れてくれた。乾杯もせず、一一年間の積もる話に花を咲かせていたら、奥さんの道代さんの料理が並び出した。

見て仰天！ 寿司屋のような舟盛り！ 聞けば、昨夜、保雄さんが船を出し夜釣りに行った釣果で、それをさばき盛り付けてくれたのが道代さん、プロ並みの腕前すごい！ 本当に長きに渡り、お二人にはお世話になりっぱなしです。

舟桶の中には大好物の良い形良い大きさの生きの良いカツオ、それにタイの仲間でも釣れない高級で美味しい赤魚が2匹も。本当に感謝です。

舟盛りが来たことが合図で「カンパイ〜」、私は話し食べ飲み話し食べ飲みで口を絶えず動かしている。いくら食べても減らない、嬉しい悲鳴。その姿を眺めていた保雄さん『さあもつと食べろ、今日は一年振りの再会とお前の還暦祝いさあ。この後ゲストも呼んでいるよ。そんな嬉しい言葉に胸がいっぱいになるのだが「ゲストって、誰」？

そうこうしていると料理の第二弾、第三弾と登場。これまた大好物の白とピンクが色つぽい「カマイの刺身」、西表の山の旨味満載あつあつの山菜天ぷら！

「カマイの刺身」に舌鼓を打っていたら、ゲストさんが一人また一人と登場。お互いに自己紹介をして呑み食いしつつ談笑、気持ちよく酔いも回ってきた時に遙か前の記憶が蘇ってきた。

「先ほど紹介していただいた一人「嶺井政則さん」の顔をまじまじと見直したのです。嶺井さんは学校を卒業後、二〇二二年まで大阪で働いていたそうで(東三国で沖縄料理屋を経営していた)、そんな嶺井さんに見覚えがあることに気づいたので。

記憶の足場を確かめるように私が「大阪十三(じゅうそう)の『はながさ』で働いていなかった？」と聞けば、彼は『働いていましたよ、その後、独立しましたけど』。さらに確認「二〇二〇年頃ですけど？ はながさで働いていた？」。『はい、いましたよ！』。これで決定的だ、私は彼と二年前大阪で出会っている〜！ それも屋間お参りした(お仏壇に「デンサー食堂の前女将が関係している！二〇一〇年当時、女将が八重山舞踊の公演で来阪した時のこと、西表ではいつもお世話になっているお札に食事に行ったのです。食べると途中で女将が『気になる店があるんだけど。消息不明になった西表の子が居るかも知れないんだよ、確かな情報じゃないんだけどね』と呟いたのです。それを聞いた私は「直ぐに行ってみようよ！ いないなら居ないで仕方がない、確かに行こう」とお勘定を済ませタクシーで十三の「沖縄料理はながさ」まで走ったのです。その結果、運よく女将と再開できたのが消息不明になった西表の子



島のメイン通りの入口付近の「あざて屋」さん



この人が酒の化身・盛雄さん。



あざて屋の東里さんと孝子さん



2009年、台風なのに深夜3時、速弾き演奏をする盛雄さん

数々の思い出を胸に、遙かなる人に手を合わせる。

一二時前、郵便船が鳩間島に到着。後一時間で酒に狂った島から脱出できる(笑)、配取を終えた保雄さんに声をかけてもらい、無事、上原への帰路に着いた。本日の海上は雨が降っているけど波静か、鳩間島とは違い(苦笑)快適な船旅になった。風の海のおかげで通常三〇分かかる海路が二〇分ほどで上原に到着。

旧港駐車場に置いていた車(池田屋でお借りした)も一晩ちゃんと留守番してくれていた、けどどうも一泊ここにいってもらうことにした。恨むのなら盛雄さんを恨んでくれ(笑)、飲酒運転になるので連れてはいけない。そんな訳でバックパックを背負い歩いて宿方面に向かうことにした。保雄さんは、別れ際に『夕方、早めに来いよ！』と一言伝え車は郵便局へ走り去っていく。

雨の中、向かう先は上原でいつも大変お世話になっている「デンサー食堂」。もちろん、屋敷に名物「八重山そば」を食べるのだけど、そこには大切な旅の目的があるのです。現在、デンサー食堂を切り盛りしているのが三代目店主の若旦那、前女将の息子さんなのです。その前女将には生前とにかくお世話になっていた、島での人との繋がりの切つ掛けを多く私に与えてくれた恩人なのです(言い出せばキリがないくらいです)。その女将の悲報を聞いたのがコロナ禍の二〇二二年、どうすることもできなかった・・・。



「大人の秘密基地」、のそばは保雄さんが待っていた



西表山菜天ぷら盛り合わせカマイの刺身



超〜解度バグン！ ホリューム満点 お店で食べれば1万円はするだろう



西表でレストラン「島ガーデン嶺」をされている嶺井さん



2010年、デンサー食堂女将と嶺井さん再会の瞬間

